

話題の新刊 おすすめの本

中国名言集一日一言

井波 律子 作



星のごとくある中国の名言の中から 366 の名言を紹介。
1 年間・春夏秋冬「一日一言」をたどること、季節の移ろいなどを深く味わうことができる。
普段何気なく使っている言葉がたくさん収められている。

親の家を片づけながら

リディア・フテム 作



思い出に満ちた家を片づけながら見えてきたのは、子どもでもある自分がまったく知らなかったふたりが生涯抱えていた深い心の傷だった。
人には語れなかった感情を語った本。

おまじないつかい

ながかわ ちひろ 作



おまじないって知っている？
いたいのいたいのとんでいけ～みたいなの。うちのおかあさんは、おまじないつかい。(まほうつかいではありません。)
ゆっくりじっくり願い事を育ててかなえます。

図書館へでかけよう。

【休館日】 3 / 3(月) 10(月) 17(月) 20(祝) 24(月)

【月末整理】 31(月)

★「おりがみ」教室 22(土) 場所:図書館

10時～15 時までの間であれば

いつでもおこしください

※折り紙は図書館で用意します



その他 おすすめの本

一般向き

- ◆男感覚女感覚の知り方 (遠藤 周作)
- ◆次郎と正子 (牧山 桂子)
- ◆ありがとう、さようなら (瀬尾 まいこ)
- ◆熟自給農業のはじめ方 (中島 正)
- ◆健脳エクササイズ (長野 茂)

児童向き

- ◆きつねのフォスとうさぎのハース (シルヴィア・ヴァンデン・ヘーデ)
- ◆しにがみとおばあさん (鎌田 暢子)
- ◆あるのかな (飯野 和好)
- ◆ストーブのふゆやすみ (村上 しいこ)
- ◆食べものの伝承がわかる絵事典 (岡田 哲)

〈前向きに生きる〉

先日のある新聞の投稿欄に、次のようなことが載せてありました。
お正月の飾り餅(プラスチック製の段の物)を買ったところ、その中に小さな餅が4個入っていました。正月から縁起が悪いと思って、餅会社に電話したが断られたという内容のものでした。
この中で問題となっていたのは、4や9の数字は「死」や「苦」を連想するからいやだということだと思っています。
でも、考え方をちよつと変えれば、4は「しあわせ」、「よい」に通じ、9(ナイン)は「苦はナイ(ン)」というふうにいる方に考えてみてはどうでしょう。
何の根拠もないのに、「みんなが言っているから」「昔から言われているから」という理由だけで信じ込んでいるというところが、社会の中に多くあるのではないかと思います。「正しいのは何か」と自分で判断するように努めることが大切です。
参考までに、多久市出身でプロ野球選手だった加藤博一さんは、最後の背番号は44でした。彼は「よいよい」と解釈し、前向きに考え活躍されました。人生は、すべて前向きに生きていきたいものです。
野田陽子

人権教育 131
ともに生きる

市民文芸

《麦の芽短歌会 多久麦の芽互選》

喜寿迎ゆ祝の年は明けにけり
吉事もたらず初雪の降る
元旦に雪が降るのは何年ぶり
庭も道路も白銀一色
台風の余波なる雨に塗れそぼち
屋根を渡るか鶴の声
どんぐりの帽子はずれて転がりぬ
栗原 瑛子
冬日の中に眠りいるかも
田淵ミチ子
近き日に子等と同居の時が来る
立ち去りがたき思いもちつつ
本田 静香

《あさみ俳句会 あさみ俳句会互選》

ママゴトのママはおかつば梅の下
中嶋 清子
日脚伸ぶ下校の足のゆるやかに
川内すみ子
冬晴れや畑の人に声をかけ
光野 正子
熱燗に昭和引きずる者同足
田代ひろ子
左手の手袋ばかり残りけり
千々岩弘幸

《多久川柳会 西山残月選》

退職し会社の重き感謝する
東子
廃屋にひっそりと咲く白い花
和子
新時代会社員よりフリーター
ユキ
初耳のふりで鎮く思いやり
正喜
表彰の後で薬物バレて来る
岳生